

IV



地域に輝く

学生生活

大学は教育と研究の場であると共に、キャンパスを舞台にした生活の場であり、文化を発信する場である。90年代に全国的な注目を集めたソーラーカーの取り組み、近年ではロボコンの取り組みなど、オホーツクの伸びやかな風土に生まれ、北見工業大学らしい文化が発信されている。学生の活動とそれを支援する取り組みを紹介する。

課外活動



オホーツク青空に羽ばたく青春の活動

本学では50を超えるサークルが活動をしている。オホーツクという課外活動には恵まれた環境を活かし、他方面々で活躍している。

またサークル組織ではないものの

NHK大学ロボコンに本学学生チームが連続出場し、本学の名前を高めた。

またKITeco（環境保全学生委員会）の活動は、学生による主体的な環境活動として高く評価されている。

サークル活動

■国立工業大学の中で光る戦績

現在、本学には体育系32サークル、文化系20サークルがあり、サークルの統括機関であるサークル連合の下でそれぞれ活発に活動している。

サークル活動の活動場所として、第1体育館、第2体育館、卓球場、トレーニングルーム、弓道場、武道場、文化系サークル共用施設、音楽室、天文ドーム、合宿研修施設、陸上競技場、野球場、テニスコート、ヨット艇庫等があり、充実した施設に支えられ、国立工業大学として誇るべき成果を残している。

2009年シーズン、創部間もないカーリング部は、北海道ミックスダブルスカーリング選手権大会初優勝とNHK杯カーリング選手権大会二連覇という華々しい成績を上げ、2005年には、第22回ユニバーシアード冬季競技大会スノーボードクロスで8位という成績を取っている。

■東北海道国立三大学定期体育大会

1957（昭和32）年から行われていた北海道教育大学釧路校対帯広畜産大学の定期戦を前身とし、1969年から本学が加わって、東北海道国立三大学定期体育大会として発足した。現在、学生が主催する大会としては最大の規模であり、道東の国立三大学の学生が、お互いの友情と親睦を深めることを目的とし、毎年5月の最終週に各大学が持ち回りで開催されている。



東北海道国立三大学体育大会

【優勝】1978年、1984年、2003年、2009年

■北海道地区大学体育大会

1954年に発足し、本学は1966年度第13回大会から参加している。北海道地区における体育使命の達成と、これが健全なる普及発達を図り、併せて大学相互に資することを目的とし、各大学が持ち回りで、毎年7月上旬に全道国公立大学の選手が一堂に集まり開催されている。



北海道地区大学体育大会

【本学の主な成績】

1976年総合6位

1976年柔道優勝

1979年弓道優勝

1977年総合4位

1977年柔道優勝

1978年総合3位

1978年軟式テニス優勝



全国国立工業大学柔剣道大会本学開催

■全国国立工業大学柔剣道大会

1965年に発足した。全国の工科系国立大学の6大学（北見工業大学、室蘭工業大学、東京工業大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、九州工業大学）により、工科系大学に学ぶ学生として、柔剣道を通じ相互の理解と親睦・交歓を図ることを目的とし、各大学が持ち回りで毎年開催されている。

【本学の主な成績】 柔道優勝 1976年、1977年、1980年、2007年

■24時間たすきリレー

「24時間たすきリレー」は、2004年に、本学の陸上部がトレーニングの一環として始めたもの。1周400mのトラックを一本のたすきをつないで24時間走り続けるイベントで、年々、市民参加者も増えている。



24時間たすきリレー

■リーダーシップトレーニングセミナー

サークルリーダーの育成およびサークル相互の親睦と理解を深めることを目的として、各サークルの次期リーダーを集め、毎年実施している。



リーダーシップトレーニングセミナー

● 体育系サークル

(部)

スキー部
 合気道部
 柔道部
 トランポリン競技部
 卓球部
 ハンドボール部
 バスケットボール部
 バレーボール部
 剣道部
 ソフトテニス部
 ヨット部
 サッカー部
 弓道部
 羽球部
 サイクリング部
 陸上競技部
 ラグビー部
 硬式野球部
 少林寺拳法部
 ローンテニス部
 フルコンタクト空手部
 ワンダーフォーゲル部
 水泳部
 航空部
 フットサル部
 カーリング部
 軟式野球部

(同好会)

女子バスケットボール同好会
 スポーツシューティング同好会
 ボクシング同好会
 International Sports交流同好会
 ASC (アクティブ・スポーツ・クラブ)

● 文化系サークル

(部)

軽音楽部
 アマチュア無線部
 写真部
 天文部
 Historical Simulation研究会
 情報処理技術研究会
 吹奏楽部
 囲碁・将棋部
 物理数学部

(同好会)

HUMAN RESEARCH
 ダンス同好会
 OFIC
 Σソサエティ
 模型同好会
 鉄道研究会
 奇術研究会
 総合美術研究会
 DDI
 バイク同好会
 北見学生合唱団



カーリング部



ラグビー部



航空部



バスケットボール部



北見学生合唱団



ヨット部



トランポリン競技部



模型同好会



音楽室



体育館



トレーニング室



天体ドーム

大学祭

■ 北見市の風物詩として定着

毎年6月下旬に北見工業大学祭「工大祭」が開かれる。サークル連合が主催する学生主体のイベントで、ステージ発表、展示会、模擬店など多彩な催し物が繰り広げられる。2010(平成22)年で48回を迎え、多数の市民も参加する北見市の風物詩となっている。



大学祭

ロボコン

独創的な発想と技術で北見工大の名を全国へ



「NHK大学ロボコン」はNHK、NHKエンタープライズが主催する大学生を対象としたロボット競技で、優勝チームは日本代表として、アジア・太平洋地域の国と地域を代表する大学チームによるロボットの競技会「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト（ABUロボコン）」に出場する。参加チーム単位では同じ大学の学部生3名と担当教員1名で構成され、手動ロボットと自動制御ロボットの組み合わせで課題に挑む。本学は2002年に始まったこの大会に、2004年、2005年、2007年、2008年と出場。2008年の大会では、準々決勝で敗れたもののアイデア賞と、トヨタ自動車からの特別賞をダブル受賞し、強い印象を残した。

ロボコンへの挑戦

毎年6月に東京で開催されているNHK大学ロボコンに、2004（平成16）年から4回出場している。

9月中旬に次年度のルールが公開され、12月に企画書による審査で約70校から25校ほどが選抜。3月末に進捗状況を調べるビデオ審査で20校ほどに絞られる。そのため12月の書類審査がとても重要で、9月中旬からは学生と毎週アイデアについて議論を重ね、インパクトのある企画書の作成と、アイデアを実現するための主要ユニットの試作を行っている。

書類審査通過後の冬休みからは本格的にロボットの製作に取りかかり、より効率良く動作するための機構を全員で頭を絞りながら完成させる。ビデオ審査では、9割方マシンが完成していないと審査を通らないため、定期試験終了後には学生は徹夜で頑張っている。これは他大学も同様である。ビデオ審査通過後は、連日プログラミングを含めたマシンの調整と改良、および練習で明け暮れ、あっという間にマシンを東京に搬出する日が来る。

本番では舞台裏にピットと呼ばれる場所があり、幅1.5m、長さ4mほどの狭いスペースでマシンの組み立てや調整を行う。どの大学も本番前の動作不良等でギリギリしており、マシンの性能よりも故障の少ない大学が勝ち進むという状況に近い。

ロボコンを通して、学生は“理想と現実”“理論と実際”のギャップにさらされ、エンジニアとしてたくましく育つ。「究極のものづくり教育」である。

事務局を含む大学サイドからの理解と支援、教員および技術員からの協力もあり、これまで4回出場した中で「技術賞」「アイデア賞」「特別賞」と3つも受賞することができた。また大学祭では毎年ロボコンのデモンストレーションをしており、訪れた子供たちに手動マシンの操縦体験をしてもらい、未来のエンジニアの育成にも貢献している。



環境保全学生委員会 (KITeco)

キャンパスの環境改善に学生の立場から取り組む

北見工業大学環境保全学生委員会（通称^{キテコ}KITeco）は、本学がISO14001を取得するにあたり、学生の視点から大学のISO活動をサポートし、学生主体の環境活動を推進することを目的として2006（平成18）年に結成された学生環境団体である。2010年10月末現在、36名が活動している。

■学内での活動

これまで取り組んだ主な学内活動としては

- ・学内ごみ分別の改善
- ・学内生協でのレジ袋削減活動
- ・蛍光灯（光センサー）の点灯範囲の改善
- ・手洗い場の水量調節による節水
- ・暖房便座の温度設定の改善による省エネ

などがある。活動を行う際は、自ら実験を行い結果を数値化して、客観的に評価することに重きを置いている。

■学外での活動

KITecoでは学内に留まらず、積極的に学外へも活動の場を広げている。過去には第5回全国大学生環境活動コンテスト（通称^{エココン}ecocon）において入賞を果たしており、本学の活動を全国に向けて情報発信するとともに、他大学との交流を通じて環境活動の活性化を図っている。その他、市内情報誌等を通じ、地域での環境意識向上を促している。

■新たな取り組み

最近の取り組みとしては、環境に興味を持ってもらうことを目的として、北見市内の小学校・児童館訪問を行っている。2009年度は、小学生を対象に、これまでの活動をもととした環境教育を実施した。「ごみとして出ているシュレッダーダストから紙を作ろう」をテーマに、子供たちと一緒に楽しみながら環境活動を伝えていく取り組みを行い、好評を得た。地域全体の環境への関心が高まることを期待し、今後も活動を継続する予定である。



暖房便座温度の測定



第5回全国大学生環境活動コンテスト会場にて



児童館での環境教育

北苑寮

外国人留学生も暮らす 国際色豊かな新規格寮

本学には1969（昭和44）年度に開寮した学生寮「北苑寮」がある。
 収容人員127人の新規格寮で、1998（平成10）年度に大改修された。
 入寮期間は最短修業年限（学部4年等）で食事は自炊。約120人が暮らしている。

本学の学生寮は1969（昭和44）年1月14日に鉄筋コンクリート造4階建、一部平屋建で総面積3,232㎡の寮室100室（二人部屋）と食堂、厨房、捕食室、浴室、洗濯室、集会室、和室、事務室などがある収容定員200人の男子寮（新寮）として完成し、同年4月1日に開寮をみた。寮室には各自に机、椅子、ロッカー、ベッド及び本棚がセットされ勉学を行うのには最適の環境にあった。

以来30年余り多くの学生の住居であり、共同生活の場としてその任を全うしてきたが、惜しむらくは経年による老朽、汚損が激しく、住環境に支障を来し始めたため、1991年度に改修の必要性を寮生に働きかけるとともに外国人留学生、女子学生が混在する新規格寮化の説明がなされ、1993年度以降は概算要求にのせることとなった。

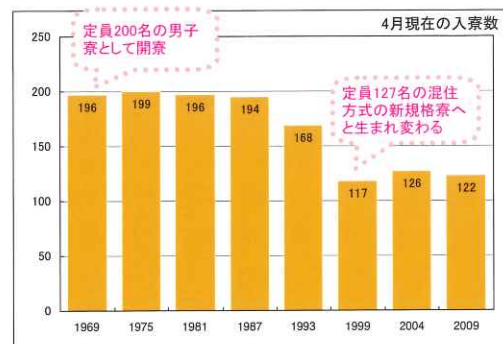
1996年度には開寮以来、寮生が行ってきた入寮選考について大学で行うこととなり、入寮選考基準の家計経済は授業料免除の半額免除基準を採用した。

改修工事は、1998年度に予算化され同年10月には全面改修工事に着工、寮生を残しながらの改修工事となったため工事を2期に分け前半後半で居住区を変えながらではあるが何とか翌年3月30日に竣工をみた

主な改修内容としては床、天井、壁の補修は勿論のこと、サッシの交換、各寮室の電気容量の増加、上下水道の敷設、食堂・厨房等のかわりに居室を27室並びに女子学生用浴室、トイレ等を新設し、年々増える女子学生の入寮を可能とした。

また、各寮室は完全個室化しており、自炊用に流し、電磁調理器があるほか、机、椅子、ロッカー、ベッド等が設置されており、電話、テレビの設置も可能なようになっている。

1999年4月1日から収容定員127名（内男子学生119人、女子学生8人）の外国人留学生（12人）をも含めた混住方式の学生寮として運用されることとなった。



入寮者数の推移



北苑寮外観



寮祭

大学、学生、父母の連携による支援活動

学生後援会は、大学と学生の父母等との連絡を密にし、「大学発展のための支援ならびに学生の課外活動、就職支援活動等、広く学生生活を支援すること」を目的に、1996（平成8）年に発足。鮎田学長をはじめとする大学関係者の方々のご指導のもとに、学生たちが豊かな大学生活を送り、社会に貢献できる人材になるための環境づくりに、多様な支援活動を行ってきた。

■学生の生活、育成、就職を側面支援

学生後援会は、有意義な学生生活、有能な科学者の育成、そして就職活動等の支援とともに、道内外で実施している父母懇談会も大切な事業の一つとなっている。また今後は、多様な異文化との協調を図りながら国際化に対応していくため、海外研修、海外交流の機会が拡大されていくものと思われることから国際交流への支援活動をさらに推進し、地域の国際化にも貢献したいと考えている。

そのためにも、学生後援会としても側面からの支援をいっそう充実させていくことが重要である。父母の方々には本趣旨に加え、学生後援会活動がすべての学生に還元されていることをご理解いただき、全員加入していただけるよう努力していきたい。



定例総会

支援活動

■課外活動支援

北見工業大学には、体育系サークル32、文化系サークル20、計52のサークルがあり、約900名の学生が活動している。学生の自主的なサークル活動は、大学教育の一環ととらえ重要視して支援を行っており、同じ目的や目標を持つ仲間が集まって活動することで友人がしやすいこと、集団における社会通念が身につくことなど、その役割は大きいと思われる。



サークル活動

しかし、サークル活動費の大部分は学生個人の支出に頼っているのが現状であり、遠征費の捻出にアルバイト等が多くなると、学業に支障をきたすといった問題が起きかねない。学生後援会としては、会費の一部をサークル活動等の助成に当て、課外活動の活性化を支援している。

■就職支援

本学では、早期からのキャリア支援として初年次からセミナー等を開催し、学生自らが将来について考える機会を設けており、3年次からは就職ガイダンスやインターンシップを実施するなど、学生が有意義な就職活動を行える体制を整えている。

学生後援会としても、就職対策用図書の整備、インターンシップ受入企業や就職先企業の開拓、就職ガイダンス実施のための経費に会費の一部を当て、支援を行っている。



就職ガイダンス

■父母懇談会の開催

1996（平成8）年度から実施されている父母懇談会では、全体説明会として、大学側から「大学の教育および就職状況等」の説明、および学生後援会から「学生後援会の活動状況等」の報告をしている。

その後の各学科・専攻に分かれた教員による個別面談では、父母からは修学状況、就職等について質問が出されるなど、熱心なやり取りが行われている。

会場は北見のほか、道外の都市（盛岡・大阪等）でも開催されており、春季の北見会場では3年連続で大学祭に併せ開催するとともに、大学認定商品の菓子「雪まりも」のほか、大学関連グッズの販売も行い、参加した父母からは大好評を得ている。

この父母懇談会は、父母の立場から大学に対する要望あるいは、学業や生活面、就職等の問題などについて相談ができる機会にすべく、学生後援会としても実施経費等の支援を行っている。



父母懇談会



大学認定商品「雪まりも」

■海外派遣

これからの技術者に望まれるものの一つに、国際社会への対応性が挙げられる。このような中、本学の海外留学あるいは海外研究発表等での海外派遣は他大学に比べて少なく、学生後援会としては、この件数が増加するよう経費の面から支援している。

この他、学生後援会では、学生表彰、ボランティア活動、交通安全講習等への支援を行っている。

卒業生と地域

本学からはすでに1万2000人を超える卒業生が巣立ち、それぞれに社会で活躍している。卒業生に対し即戦力としての期待が高まると共に、短期間で即戦力になり得る社会性の高い人材を育成する大学の責任も高まっている。ここでは、本学のキャリア支援、卒業生の動向を紹介すると共に、卒業してもなお愛校心を保ち本学に支援を続ける同窓会・後援会の活動を紹介する。

就職



出口責任を全うする 献身的サポート

近年、卒業学生の学力を保証する“出口管理”が問われているが、大学として学生の社会への第一歩を保証することを“出口責任”とすれば、それも極めて重要な役割である。本学においても、その責任を果たすべくさまざまな取り組みが行われてきた。

就職支援組織・体制の変遷

■学生支援センターに就職支援室を設置

担当事務職員は少ない人数ながら、就職支援行事の準備や運営など精力的にこなしてきた。2001（平成13）年度には学生課が管轄する就職資料室が設置され、企業からの求人情報や各種就職情報誌を閲覧できるとともに、パソコンからも就職情報が得られるようになった。また、各学科にも就職資料室が設置されており、先輩学生の就職活動・試験報告書なども閲覧できる。

2007年度からは「求人情報検索くん」が稼働し、学内のネットワークに接続されたパソコンから、本学に送付された求人票データを詳細に検索（企業名・業種・採用対象学科・本社所在地など）できるようになった。

各学科においては就職担当教員が1～3名選任され、学部生と大学院生の就職活動を支援している。就職担当教員は学生の進路希望を個々に確認した上で、推薦応募者には企業への連絡、学生の推薦

書の作成など、また自由応募者（公務員希望者も含む）には企業選択や試験・面接に対するアドバイスなど多くの支援業務を担う。さらに、就職先としての企業の開拓など、学生に対する“出口責任”は就職担当教員の献身的なサポートに負うところが大きい。

2007年度より学生支援センターに就職支援室が設置され、各学科から選出の教員（1名）が主にキャリア教育や就職支援に関する行事や進路相談を担当するようになる。学生支援課就職支援担当事務職員との連携により、初年次学生を含め全学生に対する支援体制および支援行事は一段と充実した。

キャリア教育・就職支援事業

■進路・就職相談（全学部生、大学院生対象：2007年度～）

就職支援室の設置にともない、室員（教員）が月に2～4回程度、学生からの進路や就職についての相談を受ける日を設けた。大学院進学、就職企業、エントリーシートの書き方やインターンシップ先の選択などの相談に応じている。また、外部講師を招いて就職試験を控えた学部4年生や大学院2年生に対し個別の面接対策なども行っている。



就職相談

■就職ガイドブック（学部3年生、大学院1年生対象：1998年度～）

就職活動への取り組み方がわからず、不安を抱えている学生も多い。そこで、主に学部3年生と大学院1年生向けに、就職にあたっての心構えや準備の仕方、さらに就職活動全体の流れ、実践における個々の具体的な対応方法に加え、就職統計などの有用な情報も示し、充実した活動ができるように作成されたものである。毎年600部以上配布され多くの学生に活用されている。

■キャリア支援セミナー（学部1、2年生対象：2006年度～）

入学間もない1年生や2年生を対象に、大学生活の有意義な送り方や、将来の進路選択・キャリア形成のための講演を、外部講師を招いて年に1～3回行っている。これまでの参加者は、2006年度102名、2007年度635名、2008年度299名、2009年度701名であり、関心の高さがうかがえる。

■就職ガイダンス（学部3年生、大学院1年生対象：1998年度～）

就職活動全体の流れの把握、希望企業の情報収集や研究方法、エントリーシートの作成方法、企業説明会の受け方、就職活動におけるマナー、面接対策などを、専門講師を招いてガイダンスする。2003年度までは年1回、2004年度は3回、2005年度以降は5～7回行っている。2009年度は1005名が参加した。



キャリア支援セミナー

■企業内定学生と在学生の対談（主に学部3年生、大学院1年生対象：2005年度～）

在学生在、企業や公務員に内定した先輩学生から就職活動全般についてのホットな話を、対談形式で聴く企画である。実際にあった失敗事例など有用な情報が多く、好評な企画である。2005年度49名、2006年度68名、2007年度17名、2008年度52名、2009年度58名の参加があった。



先輩学生からの就職アドバイス

■インターンシップ（学部2・3年生、大学院1年生対象：2001年度～）

在学中に夏休みなどを利用し、さまざまな職場で一定期間就業体験を行う。“仕事”への理解、職業意識の向上、職業適性を知ることができる制度である。本学ではインターンシップを選択科目として単位認定も行っている。事前研修会のほか、事後研修会も行うことで実習の効果をより高めている。

これまでの受入企業数と参加者数を図1に示す。受入企業数は2007年度より増加している。参加学生数の伸びは低いが、職業意識向上に対するインターンシップの有効性は明らかであり、実施大学は全国的にも増加している。本学においても、より実質的なインターンシップ教育支援体制が検討されている。

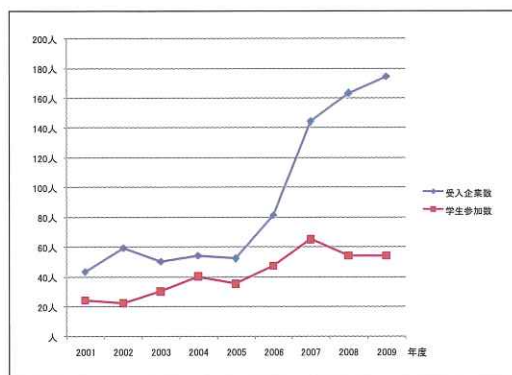


図1 インターンシップ受入企業数と参加学生数の推移

■コミュニケーションスキルアップ演習（全学部生対象：2008年度～）

円滑に仕事を進める上でコミュニケーション能力は欠かせない。低下が懸念されている学生のコミュニケーション能力を高めるために、外部講師を招いて演習形式で学ぶ機会を年に数回設けている。2008年度36名、2009年度62名が受講している。



コミュニケーションスキルアップ演習

■合同企業研究セミナー（学部3年生、大学院1年生対象：2006年度～）

本学の立地環境は教育・研究に優れているものの、就職活動する上では地理的ハンデを負っている。そこで2006年度から、北見にしながら業界研究や企業研究を行うための合同企業研究セミナーを実施している。参加企業は学科からの推薦と公募によって決定している。

実施形態は企業説明会で、1日あたり3回と予備1回が行われる。その合間に昼食を兼ねた情報交換会が行われ、学生はもちろん就職担当教員も参加し、企業の採用状況や学生の動向などが話し合われる。表Aに、これまでの実施規模と参加学生数を示す。参加企業数は2008年度には200社を超えたが、2009年度はいわゆるリーマンショックによる経済不況のためか減少している。しかし、参加学生数は年々増加している。



合同企業研究セミナー

表A

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
参加企業数	114社	139社	207社	169社
開催日数	4日間	6日間	8日間	8日間
参加学生数	407人	833人	1421人	1638人

卒業生の親睦と母校の隆盛を図る

本学の前身である北見工業大学短期大学が第1期の卒業生を送り出した1962（昭和37）年に北見工業大学同窓会は結成された。以来、14の支部と13000人を超える会員を持つ組織に成長し、本学の発展を側面から支援している。

■母校と卒業生の橋渡し

北見工業大学同窓会は、1962（昭和37）年北見工業短期大学の一期生73名の卒業と同時に誕生し、現在会員数は、全国に13,000名を数えるまでに発展した。会員相互の親睦と大学および会員の隆盛を図るための活動を推進している。

同窓会では活動の中心として、50年間に35冊（会員名簿：19冊、同窓会誌：15冊、勤務別索引：1冊）の会員名簿を含む同窓会誌を発行してきた。これらと同窓会ホームページに掲載された全国に点在している各14支部の総会や親睦会、ならびに大学や各学科および研究室などの母校の様子は、同窓会および母校と会員相互を結ぶ絆として貴重な情報発信源の役割を担っている。

さらに、2004（平成16年）4月より、本学は「国立大学法人北見工業大学」として新たな道をはじめたが、大学の社会評価を厳しく問われる時代に入ったことを受けて、地域の経済界・自治体が本学の教育と研究を支援する北見工業大学後援会「KITげんき会」が2005年に作られた。当後援会を通して同窓会では、率先して大学支援に努めている。

同窓会では、北見市で開催される同窓会総会の議決に基づき下記の事業を行っている。



会誌表紙

事業

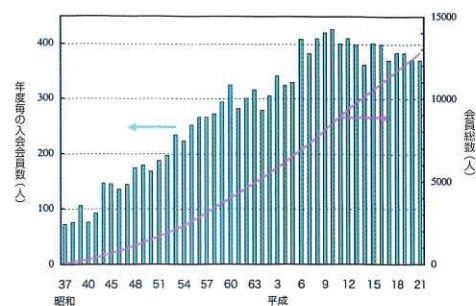
1. 同窓会誌の発行
2. 終身会費および会費準備金の納入依頼
3. 支部活動の振興・活性化
4. 同窓会誌への広告掲載依頼
5. 同窓会ホームページの充実
6. 会員データベースの充実
7. 同窓会運営について
8. 大学活性化支援活動の検討および具体的な対応
9. その他



同窓会定例総会

沿革

年度	沿革と主な事業
1962 (昭和37) 年	北見工業大学短期大学1期生が卒業と同時に同窓会設立 同窓会誌一号の発行
1965 (昭和40) 年	北見工業短期大学同窓会名簿(～4期生)を発行
1977 (昭和52) 年	この年より会員名簿が毎年発行される
1978 (昭和53) 年	札幌支部設立 第1回同窓会総会を北見経済センターで開催 支部設立運動が推進される
1979 (昭和54) 年	会員名簿 開学20周年記念号 を発行 各学科、支部より寄稿文掲載 北見工大学生歌が掲載される 20周年記念事業の一部として紋別の画家村瀬真治氏の作品を附属図書館に寄贈 北見支部、函館支部設立 創立25周年記念事業への準備開始
1980 (昭和55) 年	この年より会員名簿に学科だより、支部だよりが掲載される 25周年記念事業の一つとして応援歌の歌詞の募集開始
1981 (昭和56) 年	関東支部、関西支部、帯広支部、旭川支部設立
1982 (昭和57) 年	苫小牧支部設立
1984 (昭和59) 年	室蘭支部、釧路支部設立
1985 (昭和60) 年	会員名簿 創立25周年特集号 発行 応援歌「オホーツク海の涛越えて」掲載 創立25周年記念事業実行委員会と協賛し、応援歌の制作、植樹、懐古展、講演会、式典、祝賀会等の事業を行う
1986 (昭和61) 年	この年より会員名簿が隔年発行となり、住所変更が記載された同窓会誌を発行 「サークルだより」が掲載される
1987 (昭和62) 年	東北支部設立
1991 (平成3) 年	名簿管理業務の電算化処理開始 青森支部設立
1992 (平成4) 年	中部支部設立
1993 (平成5) 年	北見工業大学に校旗を寄贈 学術振興国際交流事業講演会に寄附
1994 (平成6) 年	この年の同窓会誌より広告が掲載される
1997 (平成9) 年	隔年で発行されてきた同窓会誌(会員名簿)は次号から3年に1回の発行となる 北見工業大学同窓会ホームページ開設
1999 (平成11) 年	創立40周年記念事業実行委員会へ参画し、記念事業協賛金を寄附 北海道新聞、北見新聞企画「北見工業大学創立40周年特集号」へ広告掲載
2000 (平成12) 年	同窓会誌(会員名簿) 創立40周年記念号発行
2001 (平成13) 年	創立50周年記念事業へ向けて検討作業に入る
2002 (平成14) 年	勤務別索引発行
2006 (平成18) 年	個人情報保護法の施行により会員名簿の発行を見合わせ、今後の発行について検討を開始する 九州支部設立 「KITげんき会」に対して最大限の協力をを行い、5年間寄附を継続する
2007 (平成19) 年	今後会員名簿は発行しないこととする
2010 (平成22) 年	創立50周年記念事業に対し寄附を行う



会員数グラフ

支部

・北見支部	創立1979年	・函館支部	創立1979年
・湿原会(釧路支部)	創立1984年	・樹氷会(青森支部)	創立1991年
・帯広支部	創立1981年	・銀河会(東北支部)	創立1987年
・のつけうし会(旭川支部)	創立1981年	・オホーツク会(関東支部)	創立1981年
・石北会(札幌支部)	創立1978年	・中部支部	創立1992年
・野付牛会(苫小牧支部)	創立1982年	・流水会(関西支部)	創立1981年
・室蘭支部	創立1984年	・九州支部	創立2006年

事務局

〒090-8507 北見市公園町165番地
北見工業大学内 同窓会事務局
TEL 0157-26-9113 (総務課)

地域と大学をつなぐ 架け橋として

2005（平成17）年、北見市を中心とした経済界、産業界、行政に北見工業大学同窓会を加え、本学を物心両面で応援することを目的とした北見工業大学後援会「KITげんき会」が設立され、本学の学業、研究の各分野で支援を頂いている。その成果として、2008年にカナダに留学した本学学生の報告書を掲載する。

■地域貢献する大学の努力に応えて

「地域のニーズに応え、地域の発展に貢献すること、および学生の学習・生活環境の支援体制を充実・強化すること」。この本学の基本目標、方針に応えるため、地域の方々ならびに同窓会が協力して支援の輪を広げるべく、2005（平成17）年11月に本学後援会「KITげんき会」は発足した。

本後援会の趣旨に賛同・協力いただいた方々のおかげで、以下に記す大学院生の奨学金や学生の語学力向上と異文化理解を兼ねた語学研修プログラム参加旅費の助成ならびに大学の積極的な広報活動への支援事業などに活用することができた。

事業

- 学生に対する奨学金制度
- 日本人学生の海外留学支援



ホストファミリーと休日

- 学生・教職員の特許化支援・起業化支援
- 研究者・研究生交流支援
- 大学広報等支援
- その他



グラデュエーション

カナダハンバー大へ語学留学

支援事業の大きな成果のひとつとして、カナダのハンバー大での語学研修プログラムに参加した、機械システム工学科 大家知子さんの成果報告書を紹介する。

語学研修で学んだこと 機械システム工学科 大家知子

長かったような短かったような1か月、私はこの研修に参加できてよかったと心から思います。たくさんの貴重な体験はもちろん、さまざまな人との出会い・別れを通して、たくさんのことを学ぶことができました。



クラスメイトと

第一に、英語が今まで以上に好きになりました。特に話すこと！ 中学、高校とずっとreadingやwritingなど文法の勉強しか習った記憶がないので、今まではlisteningやspeakingに特におもしろさを感じませんでした。というか、むしろ嫌いでした。英検も2次試験で面接があるから、という理由で受けない程です。でも、この研修で、違う国の友達やホストファミリーと雑談や世間話をしていて、「あ、違う国の人とでも“英語を使うことで”ちゃんと同じように話すことができるんだ」と妙に実感し、凄いなあと今さら英語を学ぶ大切さというのがわかりました。英語は、決して受験や試験のために勉強するのではなく、本来はこのようなことができるようになるために勉強していかないといけないのです。そういった意味で、これから私が英語の勉強をしていく上での指針にもなったのでよかったと思います。

第二に、自分の意見を持つことが大事だと思いました。授業でディスカッションしているとき、他の国の学生が皆、自分の意見を持っていて、さらにその理由まで説明していたのには驚かされました。「知子はどうですか」と言われた時、考えていたとはいえ、自分の考えがどれだけ表面的で、模範解答のような面白みも何も無い回答かということがわかり、情けなくなったことを覚えています。つまり、クリエイティブでないということです。これは、いつでも差し障りなく、という日本の文化かもしれませんが、それにしても、これからもっとたくさんの考え方を学んで、自分でも考えないといけないな、と思いました。それにしても、向こうの授業スタイルには驚きました。日本でよく「授業が受身」と言われるのがわかります。向こうでは、先生がクラスに質問すると皆思い思いに

答えを言います。最初は慣れなかったのですが、次第に私も発言できるようになりました。先生も答えが正解か不正解かということはさておき、より多くのアイデアや授業の参加度のほうを重要視しているみたいで、その考え方は私にとってとても新鮮だったし、日本の授業スタイルにはない良いところだと思います。おかげで授業中一度も居眠りをするヒマもなく、また眠いということもありませんでした。

最後に、違う国の文化を知る楽しさというのがいっそうわかりました。私は高校2年の夏にも外国に行ってホームステイをしましたが、この研修に行って「やっぱり違う文化に触れるっていいな！」と改めてそう思いました。同じ地球なのに、それぞれ国によって昔から積み重ねられてきた異なる歴史の道筋とそれを象徴する建物、町並み、人々の暮らし。文化は尽きることのない人々の興味の対象なんだと、しみじみ思いました。トロントに住む人々は日々ゆったりと過ごし、休日でも多くの店が夜の早いうちから店を閉めて、みんな夜を家族と過ごしています。日本では、夜も煌々と街は明るくて、やっぱり昔に比べると家族と一緒にいる時間は短くなっていると思うので、こういった家族と一緒にいる時間を大切にする文化ってすばらしいなあ、と思います。

外国に行ったので、勉強だけでなく、もちろん思いっきり遊びました。一番楽しかったのは韓国の友達とショッピングに行ったことです。違う国とはいえ、やっぱり女同士だったので、この服がいいとか、今これが流行ってるだとか、どこの国でも一緒なんだなあと思ひ、それぞれの国は違う文化をもっているけど共通点もあるんだということが面白かったです。それも、違う国の人と買い物に行くことが一生に何度あることだろう？ きっと一生でこれっきりだと思う。もしかしたら今回できた友達と将来会うかもしれないけれど、これはとても貴重な体験だと思います。まだまだ楽しいことが書ききれないほどあり、ひとつひとつ、日本で体験できない貴重なことばかりです。

毎日新しい発見があり、楽しく過ごすことができ本当に良かったと思っています。決してお金には代えられないものを得ることもできました。言葉で表すとしたら“経験”でしょうか。知らない土地で1ヶ月過ごして、現地の人とコミュニケーションをとり、友達もたくさん作ることができたことで、自分に自信もつきました。これからもっと英語を勉強したら、自分の世界が、将来の可能性が、更に広がるのだと実感することができたのもこの研修に行ったおかげです。楽しいだけでなく、英語を勉強し続けるいい機会になりました。



クラスメイトと教室にて



フェリーから見たトロント